大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	F110310101773	設置等組織名	スポーツデジタル学部スポーツデジタル学科
大学名	ぐんま未来大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	群馬	事業計画名	スポーツ×DXにより社会課題解決に貢献できる人材を養成し、地方創生・地方成長を実現する「ぐんま未来大学 スポーツデジタル学部 スポーツデジタル学科」設置計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和7年度	1-①令和７年７月　新学部のための備品検討 1-②令和７年８月　新学部設置に関する学生確保に関する調査の実施 1-③令和７年１０月　新学部設置に関する入学者選抜の見直し 1-④令和８年３月　学部等設置認可申請 1-⑤令和８年３月～　新学部広報活動	1-①　7月　新学部のための備品検討 1-②　8月～２月　新学部設置に関する、学生確保に関する調査及び人材需要に関する調査の実施 1-③　１０月　新学部設置に関する入学者選抜の見直し 1-④　3月　学部等設置認可申請 1-⑤　7月～　新学部広報活動	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	1-⑤令和８年３月～　新学部広報活動 1-⑥令和８年４月～　新学部開設準備 2-①令和９年１月　新学部施設設備整備		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	3-①令和９年４月～　新学部開設 3-②令和９年４月～　自治体、協力企業との連携開始 3-③令和９年４月～　広報活動 2後-②令和９年8月～　新学部用施設建築工事（初年度）の実施		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度	2後-③令和１０年４月　新学部用施設建築工事（２年目）の実施 3-③令和９年4月～　広報活動		令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度	3-③令和９年4月～　広報活動		令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度	3-③令和９年4月～　広報活動		令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度	-		令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度	-		令和14年度自己評価：リストから選択してください。
令和15年度	-		令和15年度自己評価：リストから選択してください。
令和16年度	-		令和16年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和８年３月　スポーツデジタル学科認可申請	令和８年３月　スポーツデジタル学部スポーツデジタル学科　学部設置認可申請	
定員減又は 学部等の廃止	-	-	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	ぐんま未来大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。☐

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑭の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑭の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
☐ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
■ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
主たる科目として、FHDTの有するHMAによって、部活動の地域移行も含めた地域スポーツにおけるAIの活用教育を実施することや、群馬クレインサンダーズにおけるスポーツDXインターンシップ、実際のプロの現場で活躍するデータアナリストやコーチングスタッフ、マネジメントスタッフやFHDTでの業務実績がある実務家教員等で講師が構成される連携開設科目などが一例である。主たる連携先となる太田市やみどり市、学校部活動の地域移行による指導者不足やスポーツ施設不足、コミュニティの不在、そして保護者の理解と協力が地域課題として挙げられ、その受け皿の必要性を求められている。デジタル田園都市国家構想事業によって、太田市はOTAアリーナを核として群馬クレインサンダーズと連携したまちづくり推進を行っており、みどり市は「みどり市元気プロジェクト」を推進している。HMAによる先端技術やAIを活用した新しい時代の部活動指導者や地域移行に資献できるよう、核となる自治体・企業とも共創して、学生のPBL教育ならびにインターンシップやフィールドワークを実現し、課題解決に繋げていく構想を掲げている。 なお、イオンモール(株)ならびに太田市とも同様に協議を進めており、すでに本学短期大学部アート・デザイン学科では、学生が考案したデザイン画をもとに、子どもたちが手形で花や虹の絵を描き、イオンモール太田を彩るといった共創授業やフィールドワークを展開している。これらの実績を基にフェーズ1期間中に具体的な協議を進める予定である。 eスポーツ教育マネジメントについては、カリフォルニア大学がNASEF米国と連携して教育カリキュラムを開発するなど強みを有している。ただし、このカリキュラムは、中・高生に対するカリキュラムがベースであって、大学等の高等教育機関におけるものではない。また米国は、日本と文化背景が異なり、eスポーツはデジタルテラーを高め、PBL型学習ツールの一つとしてOECDからも注目されている。これらの背景を基に、カリフォルニア大学とNASEF米国と連携し、大学におけるeスポーツ教育指導者を養成する科目開設を行うべく、NASEF日本と協議をすでに進めているが、具体化に向けてはフェーズ1期間中に現地のフィールド調査を行い、群馬県eスポーツ・クリエイティブ推進課や、群馬県eスポーツ連合と協議を heた上で、カリキュラムとして確立する。	企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施の取り組み実績、進捗状況としては、本学部のカリキュラムにおいて、過去プロ球団を運営経験のある社長やデータアナリスト等の科目を整備している。富士通株式会社とは、「実務ノウハウが学べる人材育成プログラム（仮称）」の導入に向けた共同プロジェクト開始に関する基本合意書」を締結し、HMAによる先端技術やAIを活用した企業との連携に向け、協議を重ねていたが、条件面で折り合いがつかず、新たな連携の形を検討している。PBL科目については、イオンモール太田とは既に連携協定を締結しており、3年次の地域探求ワークや4年次の卒業研究等での協力を依頼し、了承いただいている。また、イオンモール太田の他、新たに株式会社ザスパ群馬レディースクラブ、NPO法人新町スポーツクラブ、合同会社かもしかスポーツクラブ、一般社団法人桐生南スポーツアカデミーにも承諾いただいている。自治体については、設置場所となる太田市と連携について協議しており、連携することにより、地域課題の解決と未来志向の都市づくりに大きく貢献するとともに「（仮称）スポーツデジタル学部スポーツデジタル学科」設置認可に関する要望書」をいただいた。 関連分野に強みを持つ海外大学との連携の取組実績、進捗状況については、eスポーツ教育マネジメント分野において、大学におけるeスポーツ教育指導者を養成する科目開設を行うべく、「国際教育eスポーツ連盟ネットワーク日本支部（NASEFジャパン）」と協議を重ね、連携協力に関する覚書を締結した。具体化に向け協議を重ねていたが、先方の理事長の交代等により協議が滞ってしまったことから、カリキュラム上、卒業要件には含めない形（講座等）で教育カリキュラム（資格）を提供できるよう検討している。	関連分野に強みを持つ海外大学との連携に関しては、「国際教育eスポーツ連盟ネットワーク日本支部（NASEFジャパン）」を通じてカルフォルニア大学との連携を進める計画にだったが、先方の理事長の交代があり、覚書自体を見直したいとの連絡を受け、先方の理事長が交代したことにより本計画について難色を示している様子がうかがえる。そのため、卒業要件には含めない形（講座等）で学生に提供できるよう協議を続けていく。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
☐ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜においては、総合型選抜において探求評価型入試等の導入を検討しており、一般選抜・大学入学共通テスト利用選抜においては、数理科目、情報科目、ならに学修目標に掲げる"分野融合の態け橋"となるイノベーション人材のコンピテンスを確認することを目的に面接をお必須にすることを検討する。また、学校推薦型選抜においては、小論文と面接に上記コンピテンスを明確に評価するための内容を取り入れることを検討している。これらの内容は、フェーズ1で実施するニーズ調査の結果も踏まえ上で具体化する。女子学生の確保においては、すでにザスパ群馬レディースのチームに所属して、WEリーグを目指すプレイヤーとして本学に所属する枠組みを協議しており、群馬クレインサンダーズと連携した女子バスケットボールのスクール事業の展開やセチアリーディングなど、女子スポーツを入口にデータサイエンスやスポーツDXを学ぶ枠組みを検討している。特に、ザスパ群馬では、群馬県のプロフェッショナルチアリーダーチーム「GRUISTARS（グルースターズ）」が関わっており、地域活性化や子どもたちのキャリア教育にも取り組んでいる実績がある。これらの活動と本学の女子学生がチアリーディング活動を行う上で連携するスキームを、具体的に協議し始めており、フェーズ1期間で具体化することを計画している。また、IOC eスポーツゲームズや国民スポーツ大会等への出場を目指す女子eスポーツアスリートや、eスポーツ教育指導者を目指す女子枠の特別選抜制度等も検討する。なお、本学の医療保健学部は看護師や管理栄養士養成として女子学生の割合が約7割から8割と多く、その受験生層は校内附属高校も含めて、出前授業等を積極的に行い、周知を推進する。 初等中等教育との連携では、本学の附属である桐生第一高等学校や附属中学校との連携構築はすでに実施しており、出前授業の実績もあるため、フェーズ1の期間でより積極的に行う。また、その内容を基に、みどり市や太田市などすでに連携構築してある自治体、教育委員会と連携し、中学校の部活動の地域移行における大学生指導者活用促進事業を確立して持続可能な体制を構築する。そのほか、NASEF日本に加盟している東毛近郊地域の高校33校（群馬県：10校、栃木県7校、埼玉県16校）、ならに群馬県eスポーツ連合や群馬県eスポーツ・クリエイティブ推進課と契約のある高校への出前授業や招待授業の実施を計画する。なお、AIやデジタル技術を活用したスポーツの楽しさを小学生等に体験してもらうべく、太田駅前に新設する新キャンパス1階に設置予定の大型スクリーンを活用して、HMAの実演による AI活用教育を行ったり、eスポーツブレーを自由に大型スクリーンで実施することができる空間を、学生のPBL学習と連動する形で整備する等して、地域初等中等教育に開かれた学部を実現する。社会人学生の受入れ強化については、すでに本学は社会人向け入試として特別選抜を実施している。その実績を基に、現役の社会人アスリートや引退後の社会人アスリートを対象に、特記すべき競技成績を有する者のデュアル・セカンドキャリアパスウェイ開発枠として、受け入れ枠を新たに整備する。また、スポーツ庁委託事業として推進されているスポーツキャリアサポートコンソーシアムと連携し、アスリートキャリアコーディネーターを教員として配置することで、社会人アスリートの学修環境へのアクセシビリティも整える。	入学者選抜における科目の見直しについて、総合型選抜においては、探究評価型入試の導入を検討し、出願時に「事前課題」「志望理由書」を提出、入試当日は「面接」と事前課題に対する「口頭試問」を実施予定である。一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜においては学力検査を実施予定である。本学部は分野融合となるため、一般選抜は「英語」「国語」「数学Ⅰ，数学A」「化学」「生物」「化学基礎／生物基礎」、大学入学共通テスト利用選抜は「英語」「国語」「数学」「理科」「情報」から選択受験（入試区分により選択科目数は異なる）とする。学校推薦型選抜においては、学修目標に掲げる"分野融合の態け橋"となるイノベーション人材のコンピテンスを確認するため、出願時に「事前課題」「志望理由書」を提出、入試当日は「面接」と事前課題に対する「口頭試問」を実施予定である。 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取り組みとして、女子スポーツを入口にした枠組みを検討しており、現在は群馬県のプロフェッショナルチアリーダーチーム「GRUISTARS（グルースターズ）」との連携を進めており、本学とグルースターズの連携として既存学部の学生1名が所属することとなった。これらの実績を基に本学部においてもグルースターズに所属しつつ、スポーツＤＸを学びたい志願者を増加させる施策を認可後に具体的に検討していくことといている。現段階では双方に所属することで入学金免除等の内容を検討している。また、ザスパ群馬レディースも同様のスキームでの話を進めており、ザスパ群馬レディースは働きながら所属している社会人が多く在籍するため、社会人学生の受入れ強化に繋がる。 地域の初等中等教育段階との学校との連携に関しては、本学の附属高校である桐生第一高等学校と高大連携を締結している共愛学園高等学校に出前授業を複数回実施している。その他、本学部のニーズ調査や高校訪問をきっかけに県外の足利工業高等学校からも連携の依頼が来る等、積極的に初等中等教育段階の学校との連携を推進している。今後も高等学校との連携を深め、更に出前授業を計画している。また、現在本学が位置するみどり市とは部活動の地域移行に対する課題が散見され、新学部の就任予定の教員がみどり市の委員会に参画する等、中学校の部活動の地域移行における体制を構築するため、具体的な協議を続けている。 社会人学生の受入れ強化に向けた取組としては、先に述べたような女子スポーツの取組のほか、社会人向け入試として特別選抜を実施する、本入試の社会人とは高等学校・中等教育学校を卒業し、社会人の経験を1年以上有している者としている。一般的な教養と、これまで取り組んできた事項や活動等について、自分の意見を論理的にまとめることができるかについて評価し、試験方法は出願時に「事前課題」「志望理由書」を提出、入試当日は「面接」と事前課題に対する「口頭試問」とし、現役の社会人アスリートや引退後の社会人アスリートを対象に受け入れる入試を設定した。	

大学名	ぐんま未来大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	スポーツデジタル学部スポーツデジタル学科（体育学・工学関係）

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定	認可	開設			完成年度													
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	ぐんま未来大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	ぐんま未来大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	160	160																	
		入学者数	人	112	172																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	160	160																	
		入学者数(B)	人	112	172																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.70	1.08																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	626	646																	
		編入学定員	人	3	3																	
		在籍者数(D)	人	559	570																	
		編入学者数	人	6	1																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.89	0.88																	

４.外部資金の状況（全学）

年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況	申請-5年	申請-4年	申請-3年	申請-2年	申請-1年	申請	選定		開設			完成年度							
項目	単位																		
外部資金獲得額	千円	15,305	21,496	13,832	30,075	24,862	23,843	1,456											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	20,555
本事業による助成金の額(F)	千円	669,925
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	37,303

特記事項